

今週の為替相場見通し(2021年4月26日)

総括表		先週の値動き			今週と来週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		107.48 ~ 108.83	107.86	106.80 ~ 109.20
ユーロ (1ユーロ=)	(ドル)		1.1943 ~ 1.2100	1.2097	1.1900 ~ 1.2200
英ポンド (1英ポンド=)	(ドル)		1.3811 ~ 1.4009	1.3881	1.3700 ~ 1.3950
豪ドル (1豪ドル=)	(ドル)		0.7692 ~ 0.7816	0.7746	0.7600 ~ 0.7850
	(円)	*	83.10 ~ 84.72	83.56	82.00 ~ 84.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 山口 朋子

(1)今週の予想レンジ: 106.80 ~ 109.20 円

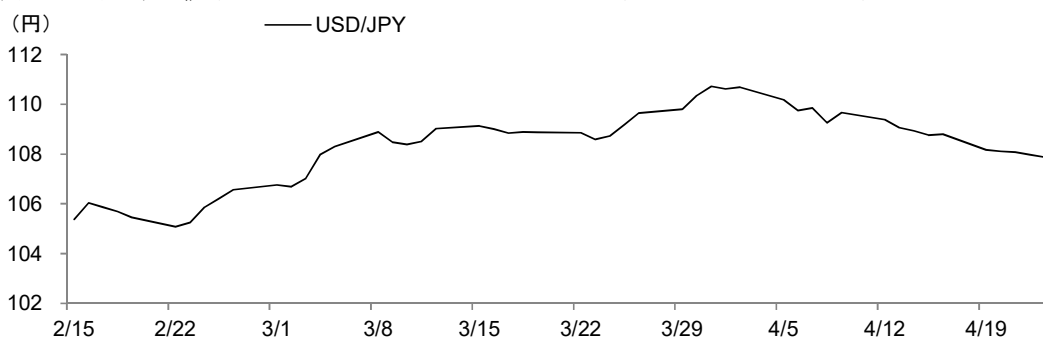
(2)ポイント【先週の回顧と今週と来週の見通し】

先週のドル/円相場はリスク回避姿勢の強まりを背景に下落。週初19日に週高値圏である108円台後半でオープンしたドル/円は、日米首脳会談を経た台湾を巡る米中対立懸念などからリスクセンチメントが悪化し、下落して取引を開始した。欧州入り後もヘッジファンド主導のUSD売りに一時108円近辺まで下落。20日は、本邦企業を中心にドル買い意欲が強く、ドル/円は108円台前半で底堅く推移。その後も、クロス円の上昇を受け、108円台半ばまで上昇。ただし、21日に日本の一部地域で緊急事態宣言が発令される見込みとなっており、日経平均株価が大幅に下落したことから、108円を割り込んだ。さらに、インド等での新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、世界的な株安が進行すると、リスク回避の動きから円買いが強まった。22日の米国時間にバイデン米大統領が富裕層を対象としたキャピタルゲイン税導入案が報道されると、米株が下げ幅を拡大。23日にドル/円は一時107.48円と3月4日以来の安値を付けた。その後は好調な米経済指標を背景に108円台を回復し、107.90円近辺で越週した。

今後2週間のドル/円相場は新型コロナウイルスの世界的な再拡大懸念を受けたリスク回避の動きが継続し、上値重い展開が継続すると予想。今週は、26~27日に日銀金融政策決定会合、27~28日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が予定されている。ともに現行政策を据え置くとの見通し。日銀は政策とともに「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」で物価見通しを引き下げるとの見方もあるが、追加緩和の可能は低いと予想。また、米FOMCでは、経済指標の回復が確認されながらも、先行きへの慎重なスタンスは維持するとみられ、金融政策の正常化に関する示唆には乏しいとみている。ともに予想通りの内容となると相場への影響は限定的となるだろう。また、28日(水)にバイデン大統領が施政方針演説を行う。インフラ投資や環境政策とともに、増税方針について話すと見られており、ドル買いを抑制する材料となるだろう。東京市場は週後半から来週にかけてゴールデンウィークで長期休場となる。アジア時間は流動性の低下を受けた荒い値動きに警戒したい。その他、経済指標は29日(木)米1~3月期GDP(一次速報)、30日(金)米3月個人所得、3日(水)米4月ISM製造業景気指数、7日(金)米4月雇用統計が控えている。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/19~4/23)の値動き: 安値 107.48 円 高値 108.83 円 終値 107.86 円



お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上